

新潟水俣病公式確認61年

新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるつどい 後世へのメッセージ

ただ今ご紹介いただきました、阿賀町長の神田一秋です。阿賀野川流域の市・町を代表し、後世へのメッセージを申し上げます。

新潟水俣病の公式確認から61年目を迎え、多数の御来賓の皆さま御出席のもと「新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるつどい」が開催されましたことは、誠に意義深く、主催の新潟県をはじめ関係の皆さまの御尽力に深く感謝申し上げます。

新潟水俣病は、単なる一地域の公害問題にとどまらず、経済発展を優先する中で安全や環境への配慮が後回しにされた結果として生じた、社会全体の課題であります。その教訓は現代においても決して色あせることはありません。科学技術が進展し、社会が高度化した今日においても、環境と人の健康を守るという根本的な価値は、決して揺らいではならないものであります。

また、差別や偏見、地域社会の分断といった深刻な人権問題をも引き起こしました。被害を受けた方々が声を上げることさえ困難であった歴史に向き合うとき、私たちは誰一人取り残されることのない社会の実現に向けて何をなすべきかを問い続ける必要があります。

阿賀町は、新潟水俣病の原因となった企業が所在していた町であります。この事実は、私たちにとって重い歴史であり、地域の発展を支えてきた産業活動の陰で、取り返しのつかない健康被害と環境破壊が引き起こされた現実を真摯に受け止め、被害を受けられた方々に向き合っています。そして、新潟水俣病の一日も早い全面解決を強く望むものであります。

阿賀町では、2017年9月から環境省の所管であります「新潟水俣病リハビリモデル事業」を実施するなど、健康増進、介護予防、教育・啓発活動を進めてまいりました。今後も国や新潟県、関係の皆さまと連携し、新潟水俣病の歴史と教訓を学ぶ機会を大切にし、語り継ぎ、次代を担う子どもたちが未来の社会づくりに生かしていけるよう努めてまいります。

そして、阿賀野川の清き流れ、豊かな自然環境を守り、被害者の皆さまに寄り添いながら、真の意味での地域の絆の再生に向けた歩みを止めることなく続けていくことをお誓い申し上げ、私からのメッセージといたします。

令和8年5月31日

阿賀野川流域市町代表 阿賀町長 神田 一秋